



きららネット阿知須（山口県山口市）

- 本地区は山口県の中央部に位置する山口市の南西部で平成13年夏に開催された「山口きらら博」の会場となった旧阿知須町にある。昭和50年代から基盤整備に取り組み、約300haの整備農地では水稻を中心に、麦、大豆、キャベツや特産かぼちゃ「阿知須くりまさる」を栽培している。
- 旧阿知須町一円の21集落の広域活動組織である「きららネット阿知須」は、平成19年に設立された。土地改良区が中心となって地域団体組織の代表者等に声をかけ、各地域団体組織参加・協力の下、地域交流型の組織として活動を開始した。
- 3つの支部を「きららネット阿知須」が統括し、広報担当部署を配置し、活動を地域に広く紹介していることに加え、工事担当部署により工事等の指導や支援を行っている。

【地区概要】

- ・ 取組面積 314.91ha
(田 301.73ha、畑 13.18ha)
- ・ 資源量 水路 114.2km、農道46.5km、
ため池 16箇所
- ・ 主な構成員 農業者、農業法人、自治会、
子供会、JA、土地改良区
- ・ 交付金 約25百万円（R4）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

地域の状況や課題

- 地域では農業者の減少・高齢化が進行。
- 上記に加え、農業法人や認定農業者などへの農地の集約化も加わり、農道、水路の草刈りや水路の泥上げなどの作業に関わる人員が不足し、作業を実施する主体組織である水利組合では対応が困難化。
- 業者委託による農道舗装や水路補修等の仕上がりが満足できるものにならない状況。
- 農業用水利施設の老朽化が進む中、限りある予算では、業者に多く委託すると施工量が減少してしまうおそれ。
- 地域には3mを超える法面も多くあり、草刈り作業には滑落などの危険を伴う上、かなりの労力が必要。



取組内容

- 業者委託工事の施工管理、自主施工の計画、管理、施工までを実施できる能力が必要。
↓
工事担当部署を設置。土木建設業の経験のある地域住民が「きららネット阿知須」に参画。
- 草刈り、自主施工工事などの保安全管理活動の働き手を確保することが必要。
↓
広報紙で募集し、援農隊を結成。農業者だけでなく全ての地域住民も参加できる取組。
- 作業しやすい環境を整備することが重要。
↓
法面に草刈り足場として再生樹脂をつかった法面ステップを導入。



ステップ設置後の草刈作業

取組の効果

- 業者委託工事を丁寧に管理することで、現地に適応した仕上がりを得ることが実現。
- 工事担当部署の設置により、自主施工が可能となり、限りある予算の中でより多くの工事を実施。
- 援農隊の結成により、草刈り、工事に携われる人員が登録され、スムーズな活動の実施が実現。
- 援農隊は、草刈りや泥上げ作業、自主施工工事にとどまらず、景観形成活動や農村文化の伝承を目的とした小学校への出前事業に参画。
- 農業従事者の高齢化が進む中、法面ステップの設置により、法面の草刈りが、より安全かつ楽に効率よく実施することが実現。

平成19年度、旧阿知須町一円の21集落において、地域資源を守るため、各地域団体組織が参加・協力の下、「きららネット阿知須」を広域活動組織として設立。

農業者の減少・高齢化が進むなど、人員が不足。
委託工事の仕上がりも不満足。

高齢化により高い法面の作業の不安が増大

Step 1 (H28)

工事担当部署の設置

土木建設業の地域の人材が退職し、地域に戻る。
委託工事の課題解決の方策として、この人材を活用。
役員会、総代会で承認。

規約の変更、対象とする工事の範囲を決める。

Step2 (H29)

新たな課題の発生

工事担当部署を設置し、自主施工を行う中で、必要な時に必要な人員を確保する調整が困難。

工事に携われる人員を登録すればよいのでは？

Step 2 (H29)

高法面課題解決のヒント

多面的機能支払中四国シンポジウムにて法面ステップの製造メーカーが出展。

これを活用することができるのでは？

Step 3 (H29)

法面ステップの導入

法面を管理する農業者に機能等の説明を行い、メリットを確認し実施。施工に当たってはメーカーから指導。
役員会で承認、総代会で報告。

まずは試験施工から。設置基準は必要では？

Step 3 (H29)

援農隊の設立

地域の全戸に配布される広報紙で募集。
役員会で承認、総代会で報告。

地域の保全活動に参加したい人は多い！！

広報紙発行検討会

小学校出前授業実施検討会

景観形成に関わる検討会

各種活動

援農隊



小学校への出前授業

Step 4 (R5.1)

技術の継承

土木建設業経験者の指導の下、工事を行うことで、知識やノウハウが援農隊参加者に蓄積されていく。



直営施工

これまで活動に参加したことのない者も含めて15名参加。

毎年、点検・機能診断を実施後、検討会を開催し、点検・機能診断結果や実施要望箇所を確認。実施の可否、工法等の検討、確認も実施。

不適正な管理による不具合箇所への対応は？
実施可否の基準は？
市の担当部署とも実施内容を協議。

今後の展望

「地域の農地と環境は地域で守る」という観点から各自治会を通してほぼ全ての地域住民が構成員として加わっている。今では地域住民活動として定着しており、今後も「100年後の将来へ豊かな環境と景観を引き継ぐために、農業者と地域住民と関係団体とが地域一丸となって活動を推進する」ことをモットーに取り組んでいく。



現地調査(点検・機能診断)



検討会